

尾道市立美術館コレクション展 描かれた尾道水道

令和4年(2022) 11/12(土) ~ 令和5年(2023) 1/15(日)

休館日：月曜日(ただし1/9〔月・祝〕は開館)、年末年始(12/29~1/3)

開館時間：午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料：一般/310円、高・大生/210円 ※中学生以下無料

※70歳以上・各種手帳(ミライロID可)をお持ちの方は証明できるものを提示により無料



(上：部分)(下：全体) 林 寅山《尾道浦絵屏風》江戸時代後期 紙本着色・屏風(六曲一隻)



尾道市立美術館

ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART 〒722-0032 尾道市西土堂町17-19千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

尾道市立美術館コレクション展 描かれた尾道水道

企画展「尾道市立美術館コレクションー描かれた尾道水道」を開催します。

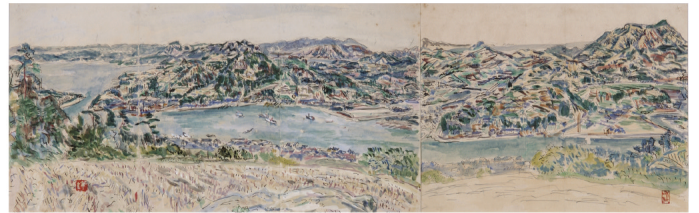
本館のコレクションは、昭和55年(1980)の開館に始まり、以来、尾道市名誉市民の洋画家・小林和作の作品を中心に形成されてきました。この小林和作を核に、親交のあった日本画家・森谷南人子など尾道ゆかりの作家で構成されています。

本展は、「描かれた尾道水道」をテーマに、中川一政、中根寛など有名作家、そして小林和作の制作の秘密を知ることのできる水彩画・日本画・油彩画による尾道風景の連作などを展示します。その他、江戸時代に描かれた林寅山「尾道浦絵屏風」を紹介します。本作は現在と地形が変わらない尾道水道や島々の情景を正確に描写しており、歴史資料としても貴重な作品です。「ベイタウン尾道」創立50周年を記念して修復され、本展が初公開となります。

小林和作、森谷南人子など尾道を代表する作家の優品を展示すると共に、当館所蔵の作品の中からアーティストがこよなく愛した尾道水道を描いた作品の数々をご紹介します。



森谷南人子《桃花処々》昭和15年(1940)、紙本着色



小林和作《尾道向島》水彩・紙



小林和作《尾道風景》昭和10年(1935)頃、油彩・カンヴァス

【協賛事業】

第16回平山郁夫美術館賞絵画コンクール 作品展示

会期：2022年12月14日(水)～2023年1月15日(日)

会場：尾道市立美術館2Fロビー ※観覧には本展観覧料が必要です。

COCORONOMICHI

※COCORONOMICHIとは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした、「シビックプライド」キャッチフレーズです。



中根寛《尾道眺望》平成16年(2004)、油彩・カンヴァス



歌川貞秀《西国名所之内 十六 備後尾の道浄土寺山》慶応元年(1865)

【ご来館のお客様へご協力をお願い】

- ・過去2週間以内に感染が拡大している国・地域への訪問歴のある方は来館をお控えください。
- ・発熱や咳の症状のある方は来館をご遠慮ください。
- ・入館の際には、マスクの着用、検温、手指の消毒などをお願いしています。
- ・会期の変更、入場制限を行う場合があります。最新の情報は美術館公式ホームページでご確認ください。

- JR山陽本線「尾道駅」から、東行きバス(①番のりば)で「長江口」下車ロープウェイで「千光寺公園」へ。なお、美術館最寄りの「千光寺公園」行きバスは便数が少ないのでご注意ください。
- お車の方は、千光寺山ドライブウェイ経由で「千光寺公園駐車場(有料)」をご利用くださいましたら、入館時に駐車券提示により1名に限り100円割引します。
- JR山陽本線「尾道駅」、JR山陽新幹線「新尾道駅」からタクシーで約15分。



距離をとる



お話しは小さな声で



咳エチケット



消毒をする



入館時の検温

尾道市立美術館公式ホームページ
<https://www.onomichi-museum.jp>

